

日本フランス語フランス文学会

2023 年度春季大会

2023 年 5 月 27 日 (土)・28 日 (日)

会 場：慶應義塾大学日吉キャンパス 〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1

大会本部：第 4 校舎独立館 4 階 D407 教室

MAIL : keio2023sjllf@gmail.com

- お車でのご来場はご遠慮ください。■お問い合わせは、メールをお願いします。
- 大会費等は当日受付でお支払いください。
- 大会参加にあたり、招請状の必要な方は学会事務局までご請求ください。
- 委員会・役員会につきましては、各委員長・幹事長よりご連絡いたします。
- 懇親会は事前登録制です。5月15日(月)までに所定のフォーム(7ページ)よりご登録ください。

大会費：1000 円

昼 食：5 月 27 日 (土)・5 月 28 日 (日) とも、会場周辺の飲食店が営業しておりますので、お弁当の用意はございません。

- 一般控室：第 4 校舎独立館 2 階 D204 教室
- 賛助会員展示会場：第 4 校舎独立館 2 階 D205 教室 (5 月 27 日)・協生館イベントホール (5 月 28 日)

第1日 5月27日(土)

各種委員会	9:00 - 10:00	第 4 校舎独立館
幹事会	10:40 - 10:50	第 4 校舎独立館 D202
役員会	10:50 - 12:00	第 4 校舎独立館 D202
受 付	11:30 - 17:30	第 4 校舎独立館 1 階
開会式	12:50 - 13:10	第 4 校舎独立館 1 階 D101
司会	大出 敦 (慶應義塾大学)	
開会の辞	井上櫻子 (慶應義塾大学)	
開催校代表挨拶	奥田暁代 (慶應義塾大学常任理事)	
会長挨拶	小倉孝誠 (慶應義塾大学)	

研究発表会 第 1 部 13:15 - 14:55

第 2 部 15:05 - 16:45

特別講演 17:00 - 18:30 (フランスより中継)

Sylvain Menant (Sorbonne Université)
« Les études françaises sous la menace épidémique :
une esquisse de bilan »

司会 井上櫻子 (慶應義塾大学)

懇親会 18:45 - 20:00

会場：大学食堂棟 2 階「グリーンズマルシェ」

会費：正会員 A・正会員 B・賛助会員 5000 円

学生会員 2000 円

第2日 5月28日(日)

受 付 9:00 - 14:30 協生館 2 階

ワークショップ 第1部 10:00 - 12:00

- 1 散乱するジュネー—詩人・聖者・歴史家
協生館 2 階多目的教室 1

- 2 テオドール・ド・バンヴィル生誕 200 周年にむけて
協生館 2 階多目的教室 2

ワークショップ 第2部 13:00 - 15:00

- 3 アニー・エルノーの世界 協生館 2 階多目的教室 1
- 4 スイス・ロマンド文学へのまなざし 協生館 2 階多目的教室 2

総 会 15:15 - 17:15 協生館 2 階イベントホール

議長 井上櫻子 (慶應義塾大学)

閉会式 17:15 - 17:30 協生館 2 階イベントホール

会長挨拶 小倉孝誠 (慶應義塾大学)

閉会の辞 大出 敦 (慶應義塾大学)

■託児サービスについて

2020 年度より、大会での託児サービスは、託児所の開設ではなく、託児料金の補助に変更となりました。各自で託児所をご利用いただき、その料金について子ども 1 人につき 1 日最大 5000 円までの補助が受けられます。大会当日に受付で「託児サービス利用補助申請書」にご記入いただき、後日、託児所の領収書を学会事務局に送付していただきます。

日本フランス語フランス文学会 2023 年度春季大会
特 別 講 演 会 ・ ワ ー ク シ ョ ッ プ プ ロ グ ラ ム

特 別 講 演 5月27日(土) 17:00~18:30

第4校舎独立館1階D101 (Zoomにてフランスより中継)

« Les études françaises sous la menace épidémique : une esquisse de bilan »

Sylvain Menant (Professeur émérite à Sorbonne Université/Président de la Société d'Histoire littéraire de la France)

Née à la fin de 2019, la pandémie n'est pas terminée mais ses effets s'atténuent en France et les trois années qui viennent de s'écouler constituent une période relativement homogène dont on peut dégager les caractéristiques et les effets sur les études de la langue et de la littérature françaises.

Les obstacles aux réunions et aux échanges ont ralenti la recherche. Mais les moyens de communication électronique ont acquis un développement considérable et ont été utilisés à grande échelle pour la documentation et l'édition. Ce phénomène a encouragé les travaux fondés sur l'exploration numérique des œuvres, déjà prospère, et l'étude d'ensembles textuels épars, accessibles par la numérisation. Parmi les autres champs favorisés, les études féministes se sont considérablement développées.

Des travaux remarquables et des entreprises prometteuses ont émergé sur chaque période, du XVI^e au XXI^e siècle. Sans établir un palmarès ni envisager une impossible exhaustivité, on présentera, époque par époque, les tendances qui se dégagent des principales publications et des chantiers en cours, parfois suscités par la découverte d'inédits.

ワークショップ 第1部 5月28日(日) 10:00~12:00

ワークショップ1 協生館2階多目的教室1

散乱するジュネー—詩人・聖者・歴史家

コーディネーター・パネリスト：岑村傑 (慶應義塾大学)

パネリスト：朝吹亮二 (詩人・慶應義塾大学)、澤田直 (立教大学)

2021年春、ジャン・ジュネの詩と小説がブレイヤード叢書に入った。既刊のブレイヤード版戯曲集や、政治的テキスト中心の『公然たる敵』を承ける、待望の一卷にちがいない。しかし、『花のノートルダム』を皮切りに文壇に衝撃を与えた小説家、『屏風』に極まる劇作をもって世界的名声を博した戯曲家、虐げられ逐われる者たちに寄り添い『回想』の書『恋する虜』を遺した活動家、というくくりは、ジュネのごく一部を見ているにすぎない。それらの隙間に、あるいはそれらに重なりながら、あるいはそれらの裏に張りつき底に潜んで、別のジュネがいる。本ワークショップは、まとまりを拒み、全体や完成を逃れるジュネの、その散乱する破片のいくつかを拾い、闊達自在に読み解こうとするものである。

朝吹は、ジュネの詩作品について考察する。主に形式(定型)とメタファーの問題を足がかりにジュネの詩的世界の特徴や後の作品との関連を考える。

澤田は、サルトルの『聖ジュネ』の再検討を通して、伝記的なものと文学の関係を探りたい。サルトルの分析は、事実を無視して、社会から排除された少年が、泥棒、男色になることを選び、美を発見し、詩人、作家となるという物語を構築したとして評判が悪い。だが、評価的アプローチとは、そもそも文学に何をもちたらずののだろうか。いわゆる伝記との相違は何か。『聖ジュネ』という特異な作品の細部に着目して、文学研究の問題を考えてみたい。

岑村は、ジュネ晩年の未発表シナリオ、『壁の言葉』を紹介する。メトロ感化院100年の盛衰を、フランス史上の人物たちも絡めながら描く、大作である。そこには、『薔薇の奇蹟』とは別の仕方でもメトロの歴史と向き合うジュネがいる。

登壇者間の対話や会場参加者からの反応に、多くの時間を割きたい。ジュネにあてられて、談論もまた千々に乱れていくことを望んでいる。

ワークショップ2 協生館2階多目的教室2

テオドール・ド・バンヴィル生誕200周年にむけて

コーディネーター・パネリスト：五味田泰 (北星学園大学)

パネリスト：松村悠子 (早稲田大学)、塚島真実 (関西大学)

2023年はテオドール・ド・バンヴィル(1823-1891)の生誕200周年にあたる。19世紀半ばから世紀末にかけて、詩だけでなく演劇、コント、批評など幅広い領域で活躍したこの作家は、ロマン主義の継承者を自認しつつも高踏派への道を開き、晩年は象徴主義者ら後続の世代の師ともなった。

しかし、この記念すべき年に、フランス本国ではシンポジウムやコロック等目立った動きはない。このワークショップは少なくとも2023年世界最初のバンヴィル生誕200周年を記念する催しであり、フランス語圏の専門家からも期待されている。

20世紀末から現在にかけて校訂版が出版され、バンヴィルについての博士論文、記事なども増えてきているが、バンヴィルの重要性は2023年現在も十分に認識されているとはいえない。21世紀の今、バンヴィル研究はどのように進展していくのか。バンヴィルの重要性について三人のパネリストが討議する。

このワークショップでは、最初に五味田が19世紀にバンヴィルが有していた大きな役割、および死後の研究史をふりかえる。

五味田は続けてバンヴィル詩学において根幹をなす「オード」について、ロマン主義詩人の詩篇とバンヴィルの実作を比較しながらその独自性を明らかにする。

塚島はランボーにおけるバンヴィルの位置づけを、同時代の他の詩人と比較しながら検討していく。

松村はバンヴィルの演劇作品に注目し、その特徴や同時代および死後の受容を明らかにすることをめざす。

日本フランス語フランス文学会 2023 年度春季大会
特 別 講 演 会 ・ ワ ー ク シ ョ ッ プ プ ロ グ ラ ム

ワークショップ 第2部 5月28日(日) 13:00~15:00

ワークショップ3 協生館2階多目的教室1

アニー・エルノーの世界

コーディネーター：小倉孝誠（慶應義塾大学）

パネリスト：堀茂樹（慶應義塾大学）、荻野アンナ（作家・慶應義塾大学）、森千夏（慶應義塾大学）

アニー・エルノー（1940年生まれ）が、2022年度のノーベル文学賞を受賞したことは、記憶に新しい。34歳で処女作を出しているのに、作家デビューとしては遅いほうだが、『La Place 場所』（1983）がルノー賞に輝いたことで文名を高めた。その後は、発表される作品の多くがフランス内外で高い評価を受け、現代フランスを代表する作家の一人としての地位を確立した。『Les Années』（2008）は彼女の最高傑作と評される。

受賞の理由として、「個人的な記憶のルーツや疎外感、集団的抑圧を明らかにする勇気と鋭さ」が挙げられた。個人的な記憶は、作家の両親や自身の生涯にまつわるもので、エルノーは実際それらを題材にした作品を数多く書いている。エルノーが自伝的作家と呼ばれる所以である。しかし同時にエルノーの作品では、社会と文化における階級的な差異への意識が露呈する。エルノーがブルデューの理論を高く評価し、社会学者たちのほうもエルノー文学に注目し、そこにフランス社会の縮図を認めているのは偶然ではない。エルノーの創造主体は、絶えず集団的な次元と社会的な現象に向かって開かれている。本ワークショップでは、さまざまな視点からエルノーの文学世界に迫っていく。

堀茂樹は、アニー・エルノーの諸作品が倫理的規範の提示でも政治的態度のアピールでもないことを確認した上で、それにもかかわらず、あるいはそれだけに、“Je”を多用する彼女のエクリチュールがカミュの反抗——“Je me révolte, donc nous sommes”——の実践として評価できることを、そしてその意味においてひとつの文学的「アンガージュマン」と見做せることを明確化してみたい。

荻野アンナは、ひとりの書き手として、アニー・エルノーの「私」に瞠目し、そこから個人の要素が能うる限り削り取られて、残された空隙がある種の普遍性を保証する点に注目する。作者によってモノ化する寸前まで追い詰められた「私」が読者を魅了するからくりを確認したい。

森千夏は、これまでに出版された小説、自伝、日記を概観しつつ、作品の文学的特徴（ジャンル）と社会階層、ジェンダー、記憶といったいくつかの主要テーマを簡潔に取り上げる。また、国内外における作品の受容や研究動向についても触れたい。

本ワークショップが、エルノー文学の豊かな多面性について議論するきっかけになれば幸いである。

ワークショップ4 協生館2階多目的教室2

スイス・ロマンド文学へのまなざし

コーディネーター・パネリスト：笠間直穂子（國學院大学）

パネリスト：正田靖子（慶應義塾大学）、平林通洋（日仏翻訳・通訳者）、篠原学（大阪大学）

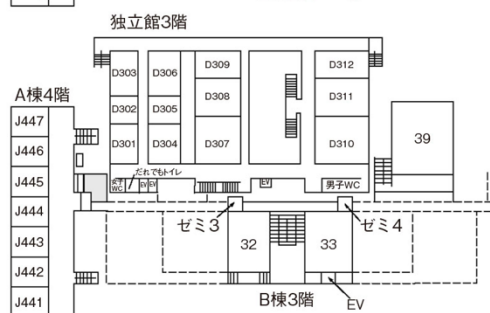
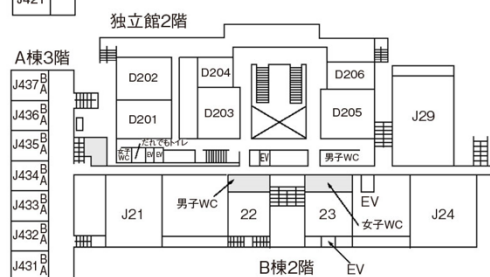
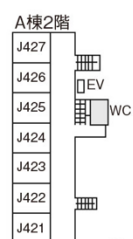
スイス・ロマンド、すなわちスイスのフランス語圏の文学は、フランスと隣接しながら独自の発展を遂げているが、ごく一部の作家を除いては、日本はおろかフランスにおいても広く知られているとは言いがたい。しかし、フランス語圏文学の多様性、環境文学、越境文学、フェミニズム文学といった観点から、近年は注目が高まりつつある。

昨年、最重要作家であるアリス・リヴァ、およびC・F・ラミュの作品が、前者はスイス・ロマンド文学を専門とする正田靖子、後者は笠間直穂子の翻訳により刊行された。これを機に、本ワークショップでは、正田、笠間に加え、プレーズ・サンドラールの翻訳を準備中の平林通洋、ニコラ・ブーヴィエ研究を進める篠原学の計4名が、20世紀スイス・ロマンド文学の展開を主要作家の肖像とともに振り返る。さらに、スイス・ロマンドという視点が、フランス語およびフランス文学・文化を捉え直す契機となる可能性についても考えたい。

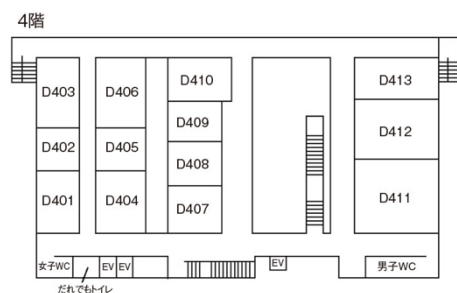
研究発表会プログラム 5月27日(土)

	第1部 (13:15-14:55)	第2部 (15:05-16:45)
	語学・中世・16世紀	18世紀
第4校舎 独立館 4階 D412	司会：小田涼（関西学院大学） 1. le fait que における直説法と接続法の叙法選択と、前提の持つ照応機能の関連性について—論理的 前提と情報構造的な前提をつなぐもの 井上大輔（上智大学博士課程満期退学） 司会：瀬戸直彦（早稲田大学） 2. 中世イタリアのフランス語 宮下拓也（京都大学大学院博士課程） 司会：志々見剛（学習院大学） 3. モンテーニュとルネサンス的個人の問題 竹中公二（慶應義塾大学助教）	司会：森元庸介（東京大学） 1. ルソーにおける「利己愛（amour-propre）」の考察—『エミール』第4篇の一節に関する解釈をめぐって 西川純子（法政大学非常勤講師） 2. ルソーの論争的作品における自己演出 大山賢太郎 （トゥール大学大学院博士後期課程） 3. カステル神父とイエズス会の国際情報網—ラファイター『アメリカ未開民族と古代の風俗比較』（1724）の書評をめぐって 寺尾佳子（立命館大学非常勤講師）
	19・20世紀	20・21世紀2
第4校舎 独立館 3階 D307	司会：三原智子（群馬大学） 1. フローベールと19世紀フランスの政治的リベリズム—『ブヴァールとペキュシェ』第6章における「個人の権利と国家の権利」の問題 平澤暢之（ギュスターヴ・エッフェル大学・日本学術振興会特別研究員） 司会：根岸徹郎（専修大学） 2. 「男らしさの危機」は既に始まっている—マラルメ「白い睡蓮」における不完全燃焼的「男性のまなざし」。印象派女性画家と『最新流行』を鍵に 清水佳暁（東京大学大学院博士課程） 3. 滞日期ポール・クローデルにおける短詩創作の背景—俳諧の受容をめぐって 学谷亮（中京大学教養教育研究院准教授）	司会：前之園望（中央大学） 1. アンドレ・ブルトン『黒い水盤で』におけるプロメテウスの擬態 佐々木大輔（早稲田大学大学院博士課程） 司会：大島健太郎（慶應義塾大学） 2. マルセル・ブルーストの作品におけるラ・フォンテーヌの『寓話』 松田真里（関西大学非常勤講師） 司会：岩本和子（神戸大学） 3. Le café et la belgité dans les romans d'Alain Berenboom – autour de la série des enquêtes de Michel Van Loo 山内瑛生（東京大学大学院・ブリュッセル自由大学博士課程）
	20・21世紀1	
第4校舎 独立館 3階 D311	司会：大森晋輔（東京藝術大学） 1. クロード・シモン『草』における廃墟たる人間の姿 山下奈女美（東京大学大学院博士課程） 2. イメージを翻訳する—ピエール・クロソウスキー『中断された召命』をめぐって 後庵野一樹（筑波大学大学院博士課程） 司会：西山雄二（東京都立大学） 3. ジャック・デリダにおける名と翻訳—「不時のアフォリズム」を手がかりに 嶺村慧（一橋大学大学院博士課程）	研究発表は1件につき30分 （発表25分＋質疑応答5分） です。今回、各発表の間に5分 間のポーズを設けております ので、2番目の発表は分科 会冒頭から35分後の開始と なります。司会者は、開始時 刻に十分ご注意ください。

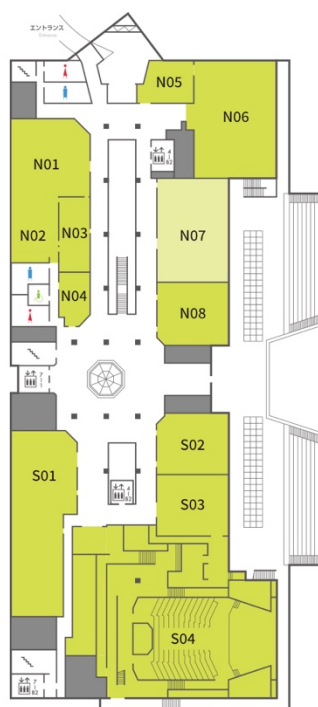
第4校舎A棟・独立館



独立館



協生館2階



N06 イベントホール

N08 多目的教室 1

S02 多目的教室 2

研究会 5月27日(土) 10:00~12:00

日本プルースト研究会 第4校舎A棟1階J412教室
日本ジョルジュ・サンド研究会 第4校舎A棟1階J413教室
ラブレー・モンテーニュ・フォーラム

日本スタンダード研究会	第4校舎A棟1階J414教室
フロベール研究会	第4校舎A棟1階J416教室
パスカル研究会	第4校舎A棟1階J417教室
日本マラルメ研究会	第4校舎A棟2階J421教室
日本ヴァレリー研究会	第4校舎A棟2階J422教室
バタイユ・ブランショ研究会	第4校舎A棟2階J423教室
日本クロードル研究会	第4校舎A棟2階J424教室
バルザック研究会	第4校舎A棟4階J441教室
自然主義文学研究会	第4校舎A棟4階J442教室
日本カミュ研究会	第4校舎A棟4階J443教室
日本フランス語学会	第4校舎独立館3階D308教室

役員会・委員会 5月27日(土)

幹事会・役員会	第4校舎独立館2階D202教室
学会誌編集委員会	第4校舎独立館2階D205教室
語学教育委員会	第4校舎独立館3階D301教室
渉外委員会	第4校舎独立館3階D303教室
学会のあり方検討委員会	第4校舎独立館3階D305教室
広報委員会	第4校舎独立館4階D404教室
研究情報委員会	第4校舎独立館4階D408教室

交通案内

日吉駅（東急東横線、東急目黒線/横浜市地下鉄グリーンライン）徒歩1分

※東急東横線の特急は日吉駅に停車しません。



大会1日目と2日目で、会場が異なります。

5月27日(土)

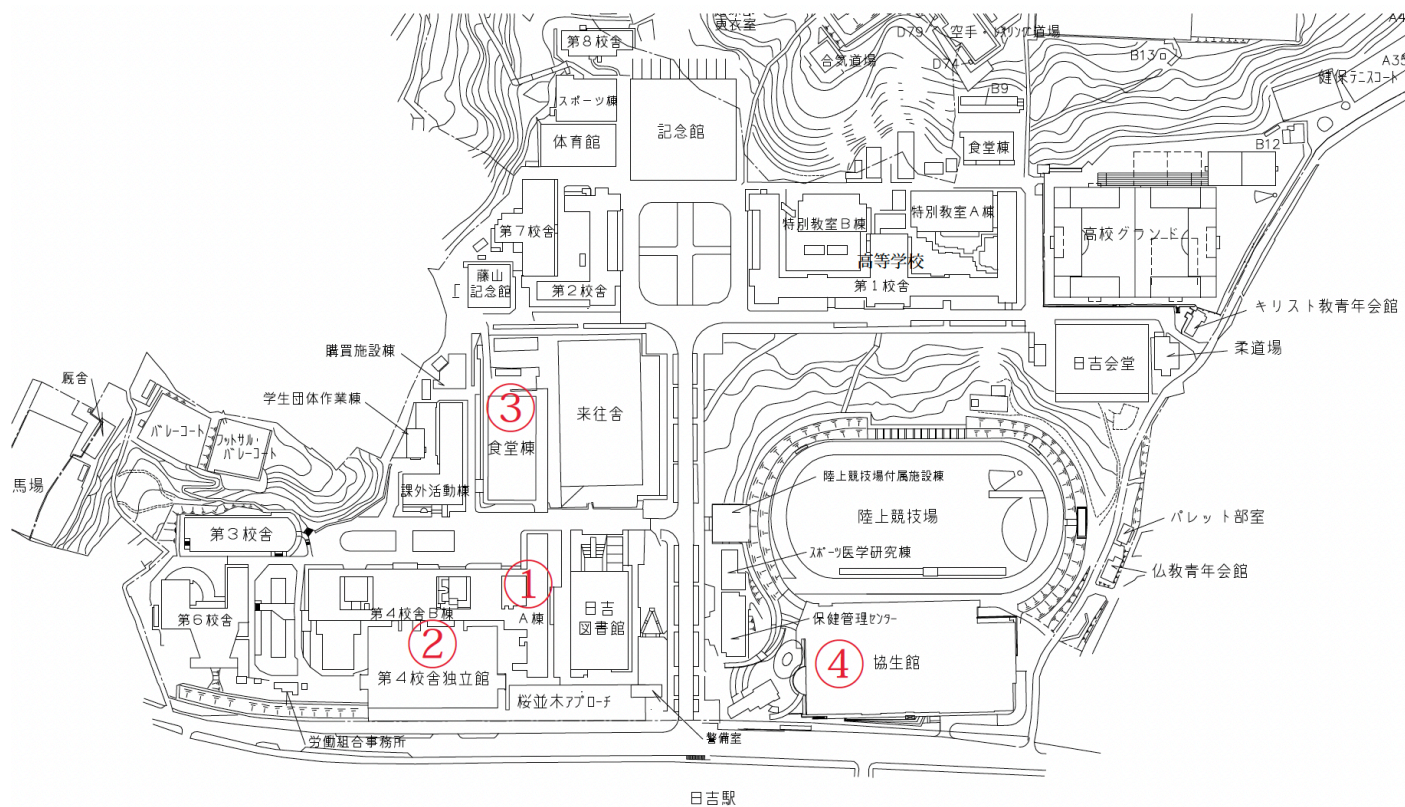
- ①第4校舎A棟・②第4校舎独立館
③食堂棟

5月28日(日)

- ④協生館

※5月27日は授業日です。授業の関係で教室変更の可能性があるのであらかじめご了承下さい。

日吉キャンパスマップ



懇親会

今回の懇親会は事前登録制をとらせていただきます。

ご出席くださる場合は、締切までに下記より必ずご登録ください。

登録用フォーム : <https://forms.gle/T8y3PXGZbHFeUFwr8>

登録締切 : 5 月 15 日 (月)



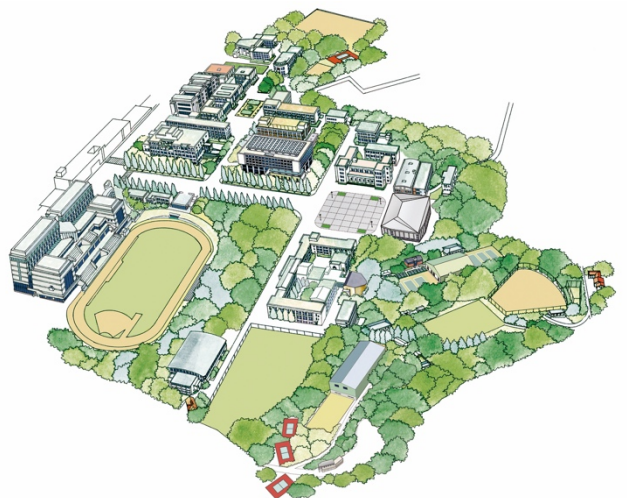
日時 : 5 月 27 日 (土) 18 時 45 分～20 時 (受付開始 18 時 30 分)

会場 : 慶應義塾大学日吉キャンパス・大学食堂棟 2 階「グリーンズマルシェ」

形式 : 立食・ビュッフェスタイル

参加費 : 5000 円 (正会員 A, B, 賛助会員)、2000 円 (学生会員)

(当日、懇親会受付で承ります。)



(メモ)